

はくぶつかん

HIRATSUKA CITY MUSEUM VOL5 NO7 1980.10.1
平塚市博物館 TNO54



10月の花 ヨメナ

秋風にゆれている野の花は色の淡いものが多く、みずみずしい春の花とは一味ちがった風情が感じられます。秋の花の代表である野菊には、花びらが紫色のもの、白いもの、いろいろの種類があり、さらに黄色いものなど詳しく調べると10種類以上にもなります。ヨメナは紫の野菊の一つで、よく似たノコンギクとは、その実にパラシュートのような綿毛が生えていないことで区別ができます。田のあぜや用水のへりなど湿った所によく生えているようです。

10月の行事

●中学生理科作品展

市内の中学生の夏休みの自由研究の展示会
期間：9月27日(土)～10月5日(日)
会場：特別展示室・第2ホール
入場自由

●体験学習シリーズNo46 「紙をすこう」

日本古来の手すき和紙を自分の手ですいてみます。

日時：10月26日(日)午前9時30分～午後3時まで。

申し込み：10月15日までに往復ハガキで。
定員25名。応募多数のときは抽選。
参加費：400円。材料代として。

●星を見る会 「秋の星雲・星団を見よう」

秋の星座と、その中に散らばる星雲や星団を観察します。

日時：10月11日(土)午後6時～8時。
メ切りました

●10月自然観察会「大磯に秋をたずねて」

日：10月5日(日) 雨天中止

コース：大磯町国府本郷付近
メ切りました

10月のプラネタリウム

「天馬の伝説」

シルクロードを伝わり、西域の天馬伝説は日本にまで来ています。その道をたどり、ギリシャの天馬「ガソス」をたずねます。

● 体験学習シリーズ№47

「巣箱を作ろう」

日：11月16日(日) 10時～15時
 場所：博物館科学教室
 内容：シジュウカラ用の巣箱を作り、冬休み(日は未定)に市内の山にかけに行きます。
 申し込み：11月1日までに往復ハガキで。多数の時は抽選で30名。材料準備のため、申し込みのしめ切りは厳守してください。

● 11月自然観察会

日：11月2日(日) 雨天中止 9時～16時
 場所：秦野市弘法山付近
 テーマ：オリエンテーリングコースで地形図の使い方を学ぶ
 申し込み：10月25日までに往復ハガキで。多数の時は抽選で30名。



☆ 一館発行の出版物案内 ☆

博物館1階受け付けてお求めください。

博物館資料№17「平塚市須賀の民俗」

本書は昭和53年度に実施した「相模湾漁撈習俗調査」の報告書です。相模湾を舞台として漁を続けてきた須賀の人々の民俗が、相模湾の魚類と漁業から人々の衣・食・住、信仰、年中行事にわたってまとめられています。
 B4版202ページ 1,500円

博物館資料№20「家と村Ⅱ—平塚市旧広川村—」

本書は「家と村—金目川通り北金目村—」に続いて、今回は旧広川村を取りあげました。今回は「家と村」というテーマの中でも、近世の農民の階層、支配と村、村組織の構造が中心となっています。
 B5版65ページ 200円

● 土曜観察会

(毎月第2・4土曜日14時～17時)

10月25日 木の実草の実(1) 湘南平
 11月8日 " (2) 岡崎
 11月22日 土の中の動物 旭・根坂間

10月～81年3月までの予定表ができています。希望者は、博物館受付に申し出てください。参加は予定表を見て自由に、申し込み不要です。

● 星を見る会「二重星を見よう」

美しく光る二重星を望遠鏡で観察します。
 日時：11月14日(金) 17時～19時
 申し込み：11月4日までに往復ハガキで。多数の場合は抽選で30名。



博物館資料№22「砂丘上の遺跡確認調査報告」

本書は昭和54年度に行った砂丘上の遺跡確認調査—一丁地B遺跡他遺跡詳細分布調査—の調査報告書です。砂丘以外の沖積地の古代人の生活が調査されました。B5版72ページ 1,000円

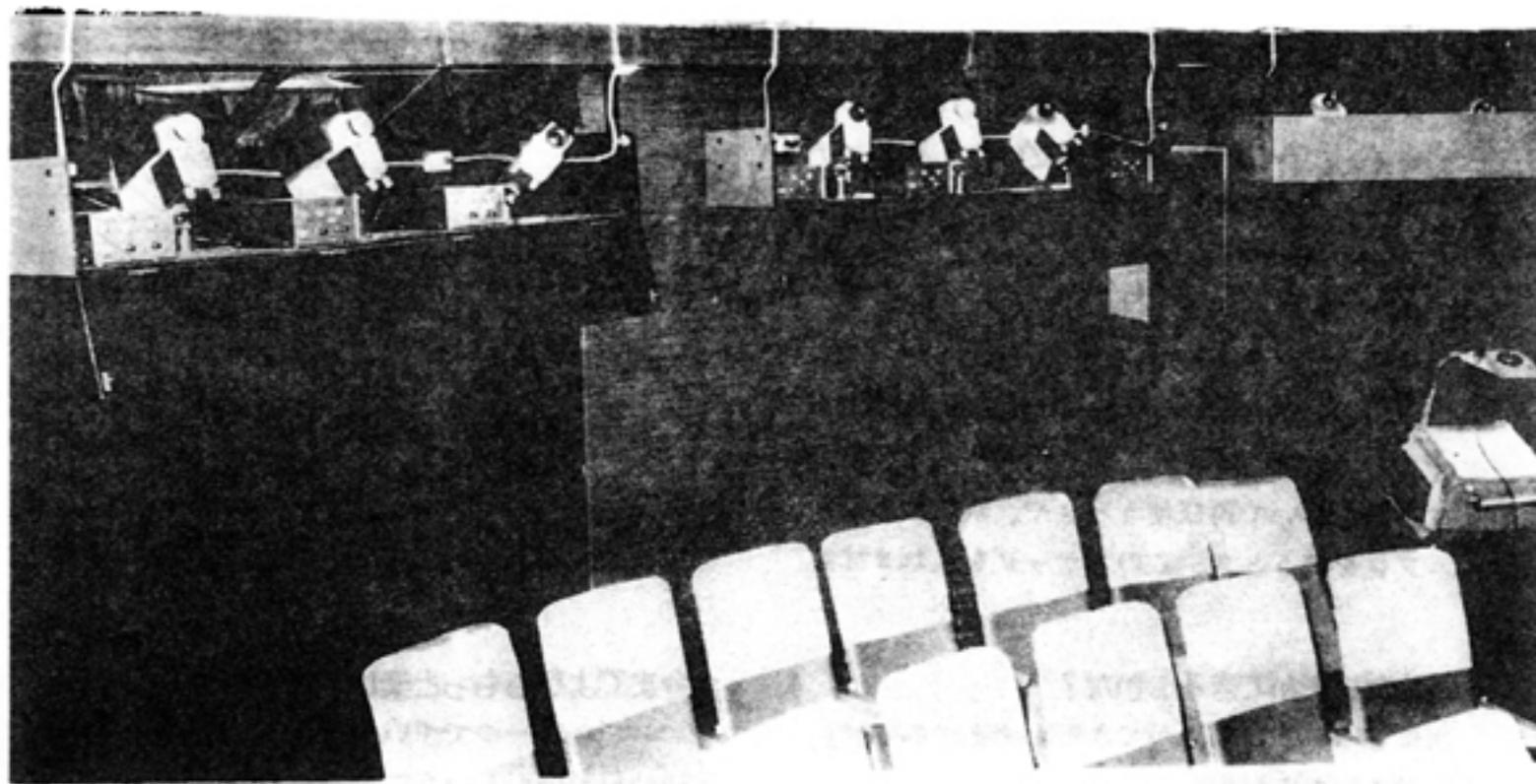
夏期特別展図録「街の生きものたち」

本書は、タンポポ・ツバメなど身近な街の生物にスポットをあて、都市化とその影響について紹介した特別展の図録です。地域自然の現状記録という意味で、平塚周辺の街の生きものたちの分布図をおさめています。
 アメリカンレターサイズ24ページ 500円

平塚市博物館年報№3

本書は、昭和53年度の博物館の諸活動をまとめたものです。その他、館外執筆者による当博物館への期待、また収蔵資料目録も合わせて掲載しました。この年報の中から私どものめざす博物館づくりをくみとっていただけましたら幸いです。
 B5版115ページ 400円

☆ プラネタリウムに新しい投影器が入りました ☆
—ユニプロジェクター—



☆ユニプロジェクターとは？

プラネタリウムにユニプロジェクターという新しい投影機が組み込まれました。6月末に取り付け工事が行われ、7月の初め頃から幼稚園投影に、そして夏休み投影から毎月の投影にと活用されています。

ユニプロジェクターとは、簡単に言うと、映すスライドの組み合わせとそれを映す時間をプログラムしておき（64ステップまで）、スイッチ一つで一度に数台（30台まで）映したり、いろいろなスピードで次々と映すことができる補助投影機です。

プラネタリウムの室に入ると、まわりの壁のところどころに新しく青い棚がついてあるのが目につくでしょう。この棚の中に全部で30台のスライドプロジェクターが入ってます。さらにスライドを付けたり消したりするときのスピードを調節してパッと付けたりフワッと消したりするための装置も入っています。スライドの組み合わせと映す時間をプログラムできるプログラミングコントローラーと、スイッチボックスが解説台の方に置いてあって、これらを合せてユニプロジェクターといえます。略してユニプロです。

☆いろいろな使い方ができます

それではユニプロをどのように使うのが、詳しく説明しましょう。

① 手動の場合

スイッチボックスには、各スライドの手動用スイッチがあり、それを押すといつでも付きます。投影の準備をするとき、スライドをセットしたり、映す方向を決めたりする時に使います。投影中にも、好きなときに映せるので手動で使うこともあります。

② プログラムする場合

まずプログラムの書き込みは、プログラミングコントローラーで行います。一ステップ毎にステップ番号を指定して書き込んでいきますが、全部で64ステップあります。一度書き込まれたものは電源を切っても消えないので、新しい投影の始まる前に1回行えばいいのです。

次に、プログラムを運転するときには、スイッチボックスのスイッチによりスタートします。このとき、どのステップからはじめてもよく、はじめにきているステップから順に進んでいきます。

(a) スライド番号だけプログラムする

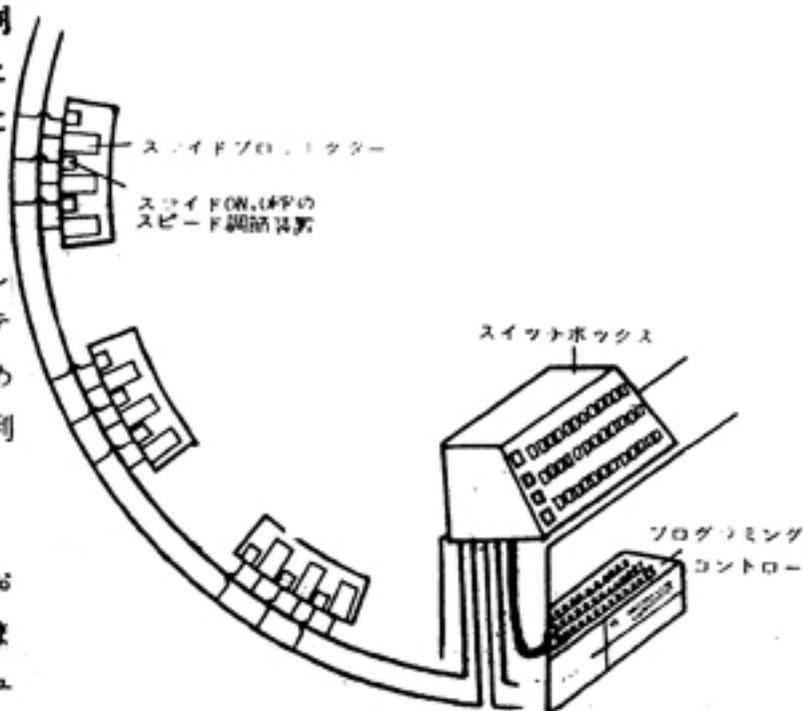
一つのステップに30台のうちのどのスライドを映すかということだけ書き込んでおくと、次のステップへ進むためのスイッチを押すまで同じスライドが映っています。話しながら映すときは、いつもタイミングが少しずつ違うのでこの方式が便利です。

(b) スライド番号とタイマーをプログラムする

スライド番号の他に投影時間もプログラムしておくと、自動的にその時間だけ映し次のステップへと進みます。途中で止めたいときは止めることもできます。動きのある演出のとき便利です。

(c) 何もプログラムしない

何も書き込まないステップを途中に入れておくと、そこでプログラムの流れが一度止まります。間をおいて再び使うときや、別の投影でユニプロを使うとき、このステップを入れます。



☆どんな投影ができるのかな？

次にどのような演出ができるか考えてみます。

① 動きのある演出

例えば、10月の投影のように天馬の連続した動きを数枚のスライドにして、順番に少しずつ場所をかえて映していくと天馬が空を飛んでいるところができます。

② 広がりのある演出

一度に数枚のスライドを映せますから、ドーム全体に星雲などを浮かべたり、宇宙人があちこちから現われたり丸いスクリーンを有効に使えます。曲面に映すのでつなぎ目が難しいのですが、数枚をはぎ合せて大きな一場面を作ることのできるのです。

③ 見やすくするための演出

平塚市博物館のプラネタリウムはイスが円形に並んでいて、北から映せば南の方の人が見にくく、南から映せば北の方の人が見にくいという欠点があります。そこでユニプロを使い、同時に同じスライドを別な方向へ映せばどこに座っている人も見やすくなるはずです。

数枚を見比べたりするときのマルチスライドとしても使えます。

☆今までよりももっと楽しくわかりやすくなる？

ユニプロは一つでずいぶんいろいろなことができる補助投影機だということがお分かりいただけたと思います。ところで、プラネタリウムは、大きなドーム状のスクリーンと、真中に置いてある本体と、解説台から成っています。本体から主に恒星や太陽、惑星、夕焼け朝焼け、目盛類などを映します。解説台の方から本体を動かしたりランプを付けたりするようになっています。また解説台には流星、太陽系、オーロラなどの補助投影機、オートスライド、ズームスライドが置いてあります。

ユニプロはプラネタリウム室の全周からものを映すことができ、今までのプラネタリウムの欠点の一つを補うものです。30台ものスライドをオート化して変化も出せると思います。ユニプロを使ってよりわかりやすく楽しいプラネタリウムにしていきたいと考えています。(岩上)